

今日も「丁あがり」

第58話

未来を予測して準備すべし！ の巻



高垣達郎

(たかがき・たつろう)

1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に㈱ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。(㈱ロボストス・代表取締役社長)

皆さん、こんにちは！ プロ野球の中田翔選手の暴力＆移籍問題に激怒しておりますロボストス高垣でございます。さて、弊社はメンバーを増員しようと採用活動中にも関わらず、大切な社員の一人が一カ月ほど休養することになってしまいました。零細企業は一人でも欠けたら大混乱です。マンパワーに多少の余裕を持たせて事業運営しておかないと、突然のトラブルに対応できないことを痛感しました。リスクを予見して事前に

行動できなかったことを責任者として猛省しています。

一方で、農業界は一人親方のワゴンペで回している経営者が多く、かねてより心配しています。天候リスクが増すなかで、機械や資材のコストが上がっても農作物の価格は上がりません。だからといって面積を広げて収量を増やせば、リスクも増大していきます。もし大病を患ったらどうなるか。もし事故に巻き込まれたらどうなるか。農家さんと話しているとそう

いう不安も垣間見えるからこそ、現場の力になれる仕事をしようと思熱くなってしまうんですね。

汎用機ほどニーズも多彩

では、先月の田植機に続いて、今月は野菜移植機の足回りについて話してみよう♪ 最近では野菜移植機のトレッドのカスタマイズ依頼がよくあります。例えば、ヤンマーPH1WAのトレッドを加工して露地トマトをセンター植えたいとか(写真1)。例えば、



写真1：センター植え仕様にカスタマイズしたヤンマーの野菜移植機PH1WA



写真2：ヤンマーPH1WAのカスタマイズ部品の1つ。純正部品を活かして追加工で仕上げることで、コストを抑えて納期を短縮した



写真3：キセキPVH100のカスタマイズ部品。丸棒に穴を開けただけの即席のロットピンもプレゼント。シンプルな仕事を黙々と積み上げよう！



写真4：キセキPVH2の純正部品の1つ。このシャフトをどうやって700mm延長させるか、工程を想像できますか？